

第 129 回卒業式

奨励

しなやかな竹林

庭先の梅も満開となり、メジロが気ぜわしく飛び回って梅の香りを運んでいます。

本日、ここに英和女学院 129 期生 81 名が百花繚乱のごとく満開となりました。卒業生皆さん、卒業おめでとう。

お母様、お父様、ご家族の皆様、お嬢様のご卒業を心よりお慶び申し上げます。誠におめでとうございます。

18 年前、皆様に小さな命が授けられました。指を握った、こっちを見た、笑った、寝返りをしたと一喜一憂した日々を懐かしく思いつつ、あっという間の成長に驚きとお喜びのことと思います。

本日の卒業式には石井博文理事長、中井弘和学院長、柴田敏大学学長始め学校関係者には感染予防のため出席を控えて頂きましたが、お祝いと励ましの言葉が寄せられています。卒業生皆さんと共に感謝申し上げたいと思います。

私が校長として着任した時、皆さんは高校 2 年生でした。夜桜乱舞、カナダ研修旅行と皆さんの様子を微笑ましく見守りました。そして体育祭、英和祭と、皆さんは生徒会を中心に大活躍でした。英和の宝、誇りだと感じました。

しかし最終学年を迎える頃、世界が 100 年に一度と言われるパンデミックに襲われました。臨時休業、感染予防、オンライン授業、学校行事の中止、延期、縮小、自粛生活が続きました。

でも英和生は明るさ、素直さ、優しさを失いませんでした。むしろ皆さんはより一層一日一日を大切に過ごされたと感じていました。

その時、私は学生時代に過ごした京都の竹林を思い出しました。ご存じのように竹は地下茎が広がって竹林となります。地震が来たら竹林に逃げろと言うほど、竹林は揺れに対しては強い地盤となってくれます。一方、伸びた竹はとても丈夫で、しなやかです。どのような風が吹いても折れることなく、互いに傷つけることなく、しなやかに揺れるのです。

皆さんはまだ意識していないと思いますが、英和女学院の 3 年間、6 年間で培われたものが竹林の地下茎だと思って下さい。目には見えないけれど、あなたがたを根っこの部分でしっかりと支えてくれるものが、この英和女学院で培われたと信じて下さい。そしてこれからどのような風が吹いても折れず、しなやかに揺れながら成長されることを信じ祈っています。

最後に、あらためてお母様、お父様に感謝を申し上げたいと思います。「竹の子の親勝り」と言います。いつの間にかお嬢様は美しい「かぐや姫」に成長されました。英和女学院を信頼し、お嬢様をお預け下さり感謝の言葉ありません。神様から授かった小さな命が愛と奉仕のために旅立つことを信じ、共に見送りたいと思います。

2021年3月1日

静岡英和女学院高等学校

校長 大橋 邦一